

社会福祉法人

令和4年12月号



葦の家福祉社会だより

昨年4月、葦の家福祉社会の2番目の通所施設である「えーる油山」の近くに、「あーす保育園」が新しくオープンしました。東油山の地域の中で、小さな交流が生まれています。交流について、お互いどう感じているのか、お話を伺いました。

あーす保育園×えーる油山



あーす保育園東油山 ▲

毎日の暮らしのなかで交流を

—交流のきっかけなどお聞かせください

佐々木施設長（以下 佐々木） 平地になっているところに看板ができて、ここに保育園ができるんだと見ていた。せっかく近くにできるのだからご縁があればと思っていた。

津江園長（以下 園長） 開園前に仮事務所を借りていた。通勤途中に、えーる油山さんの『ウインドウ展覧会』に目が釘付けとなった。開園したら、（えーるに）ご挨拶に行って交流をさせていただこうと思っていると職員には言っていたが、思い描いていた交流が今年のうちに叶っていて。実現したことがすごく嬉しい想いと、子どもたちにとっての自然の交流って特別なことではなくて、挨拶をするとかそういうことだと思うんです。それができることが嬉しい。

佐々木 『ウインドウ展覧会』を取り上げていただけたけれど、卒園児さんの絵の展示などコラボしたいねとうちの職員と話していた。（実現して）行き

交うお父さんお母さんが、展示を観ている姿を見て、仲間たちも「良かったね、おめでとう」みたいな感じでね、やり取りしてるのを見てすごくいいなって思ったんですよね。

園長 「えーる油山さんに（卒園児の）絵が飾られるんだよ」と言うと、「緊張する～」と子どもたちみんな真剣に描いていました。みんなで（展示を）観に行ったときに、仲間の皆さんから「おめでとう」と言われて、はにかんだ笑顔やそのやりとりが嬉しかった。そのときの子どもたちと仲間の方の、両方の目の輝きを見て、すごく素敵な記憶に残る経験でした。私はこういうことを望んでいたんだなって再認識したような気がします。

卒園児の展示 ▶



—3か月に1回、仲間の絵を、保育園の玄関に飾らせてもらっています。

福田主任 保育園に絵を展示させていただいているのも、本当に嬉しい。玄関を入ったらまず絵が迎えてくれるんですね。子どもたちは作品が入れ替わった時には「変わってる」って親子のコミュニケーションにも繋がっています。子どもならではの見方があったりして、大人とはまた違う自由な発想で見るので、これはなんだろうねって親子でお話ししながら、そのコミュニケーションのとても良い役割をえーる油山さんの作品が担ってくださっているんだなあと思って。そして作品を作者が届けてくださるので、作者の方に会えるのもすごく嬉しい。



(左)あーす保育園 津江園長
(真ん中)あーす保育園 福田主任
(右)えーる油山 佐々木施設長

—成長の中でつながっていく

福田主任 子どもたちはどういう施設なのかと漠然としているけど、「施設長に絵を届けたな〜」とか「あそこってなんの施設だったんだろう」など、思い出の中からきつとつながっていくと思うんですよね。えーる油山さんの社会的な意義のこととか、きつとあの子たちの成長の中で、どっかでまた繋がっていくんじゃないかなって。

園長 私が施設に行ったときに、絵の作者の方が案内してくれて。描いた人ですよと言いなさいって周りから促されていて、なんか照れくさそうにしてあったんですよね。あの時の表情もすごく印象に残ってて。こうやって、その方の自信に繋がってるんだなあって思いました。私たちも保育園の子どもたちに様々な経験を通して自信に繋がっていくことを、とても大切に日頃から保育をしています。色々通ずるものを感じます。



佐々木 どんな形でも社会とつながっていく、それがあーす保育園さんに絵を飾ってもらうことだったり。また授産品に絵が採用されたりすると、デザイン料として工賃とは別に上乘せられるんですよ。その対価として自分に入ってくる。創作がそうやってサイクルになっていくんです。

—これからの交流は

園長 これからの交流と言うことで、私たちもいろいろ考えるところはたくさんあるんですけど、子どもたちが保育園の散歩に行ったときだけじゃなくて、ママたちと買い物に行く途中でもえーるの前を通って、誰かが出てあったら「こんにちは」とか言えるような交流を目指したいというところが一番強い思いで。

佐々木 ありがとうございます。パフォーマンスじゃなくてね。なんか本当にナチュラルに交流がね、続けていけるのが一番いいかなと思って。保育園から子どもたちが「朝顔の苗持ってきてくれるよ」って聞いたときも、なんか朝からソワソワしてね。

園長 えーるさんの朝顔がなかなか咲かないから心配してたんですよ。保育園では満開なのに何か間違えたのかなって。だから咲いたときは、「咲いたー！！」って(笑)

佐々木 また来年度の卒園児さんの絵を展示させてもらってよろしいでしょうか。

園長 こちらからもお願いしたいと思っていましたですよ。よろしくお祈りします。

対談は11月2日(水)あーす保育園で行われました。貴重なお時間をいただきありがとうございました。



冬の新作できました!



Studio Ashi

葺の家の「サメ」をデザインした『ショルダートート』は、手に持ってもOK! 肩にかけてもOK! お買い物、お出かけ、お仕事にと、さまざまな場面でお使いいただけます。丈夫なキャンパス生地を使用し、A4サイズが縦に入る大きさで、マチが広く、大容量です!

もうひとつは、毎月仲間たちのいろんな絵がお楽しみいただける『2023年版スケジュール帳』です。B6サイズで持ち運びも便利です。お仕事やプライベートのお供にいかがでしょうか (^_^)



ショルダートート
「Shark」

Studio Ashi
2023スケジュール帳



限定
400部



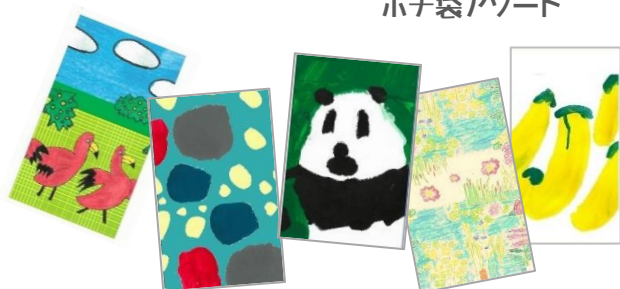
Öl Aburayama

Öl Aburayama

えーる油山の『2023年アートカレンダー』は、仲間たちの絵が満載。見開き A4 サイズのコンパクトな大きさで、飾る場所を選ばずにお楽しみいただけます。毎日の生活にアートを!

また、お年玉袋としても使いやすい『ポチ袋アソート』は、かわいいデザインが全部で5種。5袋1セットになっています。

ポチ袋アソート



限定
500部

2023年アートカレンダー





葦の家の仲間の創作活動がテレビで紹介されました！



9月下旬に葦の家の仲間の創作活動について、NHKからのテレビ取材がありました！昨年秋に、福島県の「はじまりの美術館」で展示されていた作品を観て、スタッフの方が関心を持たれ、今回、テレビ取材のお話をいただきました。

撮影中、時々カメラやマイクを気にしながらも、とても集中して、とても楽しんで創作活動に取り組んでいました♪ 作品もかっこよく撮っていただきました☆

放送は10/30に行われ、すごく素敵な内容に仕上がっていました。

NHK Eテレ「no art,no life」2022年10月30日放送

放送は終了しましたが、NHKのホームページ内にある「no art,no life」紹介ページの中の「過去のエピソード」に概要が紹介されています。



no art , no life



空気清浄機・浴室暖房機などの購入費用を補助していただきました

福岡地域労働者福祉推進協議会様より福祉募金活動としてショートステイ事業で使用する空気清浄機や浴室暖房機、ソファ等々の環境備品の購入費用を寄贈（補助）いただきました。ショートステイの利用者を安心・安全にお預かりする上で、とても助かっています。本当にありがとうございました。



法人行事変更のお知らせ

毎年10月に開催していた『わはは祭り』を今年こそ再開させたいと、規模の縮小化、イベント内容の変更など、なんとか開催できないかと協議してきましたが、オミクロン株による感染の再拡大を受けて残念ながら今年も中止しました。また、地域の方や関係者もお呼びして開催していた『法人実践研究発表会』も1月・2月に分けて法人内部関係者のみで開催することとしました。

人事異動のお知らせ

【退職】坂本良二 葦の家管理者、若久・屋形原放課後等支援事業管理者：11/7 付

【就任】末次恵一 葦の家管理者〔法人本部事務局長兼務〕：11/8 付

友廣道雄 若久・屋形原放課後等支援事業管理者〔法人本部長兼務〕：11/8 付



葦の家（生活介護）

どんぐり村へグループ外出！

新型コロナ感染対策をしながら、楽しめることはないかと職員で何度も検討を重ね、佐賀県の三瀬ルベール牧場どんぐり村まで、2班ずつ3日に分けて2年ぶりのグループ外出に行ってきました。

園内ではふれあいゾーンで動物とのふれあいを楽しんだ班や、紅葉を見て秋を感じながら散歩を楽しんだ班、ベンチに座り景色を眺めながらゆっくりとした時間を過ごした班。それぞれが、思い思いに過ごしました！ 大自然の中で食べるお弁当も最高でした！ 口いっぱい唐揚げを頬張り、「あ～おいしいね～」と口にする仲間の姿が印象的でした。デザートにソフトクリームを購入し、美味しそうに食べる仲間や、家族や自分のお土産を真剣に選ぶ仲間もいて、時間いっぱい外出を楽しみました。満面の笑みで「また行きたいね」と大満足の仲間たちの言葉を聞いて、職員もすごく嬉しい気持ちになりました。

今回の外出にはボランティアさんも駆けつけてくださいました。地域の方やボランティアさん、いろんな方々が普段から葦の家の行事を支えてくださっています。仲間たちもいろんな方々と関わる機会をいつも楽しみにしており、その姿はとてもいきいきしています。支えてくださる方々のありがたさを改めて感じた今回の外出でもありました。限られた条件のなかではありましたが、「楽しい」を仲間と職員とボランティアさんと共有できたこのグループ外出は、仲間たちにとって最高の思い出となったことと思います。

（支援員：父母）



えーる油山（多機能型：就労継続 B 型+生活介護）

「あおぞら市」好評です！

えーる油山では、那珂川にお借りしている畑、地域の方のご厚意でお借りしている畑（2か所）、事業所前の畑の計4か所で、仲間たちが季節の野菜をつくっています。



メインイベントである収穫以外にも、土づくりから始まり、種や苗の植え付け、日々の草取りなど、太陽の下、土と水と自然の中で農作業をがんばっています。せっかく収穫できた落花生を施設のベランダで干していたらカラスに食べられるなど、なかなか思うようにいかないこともありますが、そういったトラブルも仲間たちと大笑いしながら楽しんで作業しています。

[<次頁へつづく>](#)

そうやって収穫できたものを販売するため、事業所の玄関に無人の「あおぞら市」を開いています。道行く方に好評で、「この間のお野菜は美味しかった」など会話が弾むこともあります。また、「ここはどういう施設ですか」といった質問もあり、思わぬ地域の交流が生まれているところです。「あおぞら市」を開催するときは、葦の家のフェイスブックでご案内しますので、ぜひチェックしてみてくださいね。

(支援員：山内)

特別支援学校放課後等支援事業（屋形原・若久）

“秋じゃがいも”づくりにチャレンジ！

ルームでは、毎年さつまいもを育てて秋に収穫していましたが、今年は秋じゃがいもづくりに挑戦しました！ 9月に植え付け、10月に芽かきをおこない、すくすくと育っています(*´▽`*)
クリスマスには収穫したおいもで、みんなの大好きなフライドポテトやポテトチップスを作っておいしくいただくと思っています♪



はじめてのハロウィーン🎃

毎年恒例のハロウィーンで、学校の職員室や葦の家・えーる油山を訪問しました。屋形原の参加児童さんたちは全員小学部1年生。「なにをしにいくの?」「(衣装が)きもちわるい…」と、最初は少しとまどいの表情でした(・_・)

それでも、葦の家の職員さんたちからお菓子をもらう頃には立派に変装して、小さなオバケ(?)たちがみんなを楽しませてくれました🎃 (責任者：是永)

ヘルパーステーションほっとほっと・ショートステイ

より多くの支援提供に繋がるように

ヘルパーステーションほっとほっとは事業開始から16年。現在のスタッフ数は常勤、非常勤を合わせ12名です。全員が専従ではなく、法人内事業所の兼務や、他社の仕事を掛け持ちしている非常勤スタッフがおり、勤務シフト調整を工夫しながら毎月300件程のサービスを提供しています。今年度より訪問介護支援記録システムを導入し、スマートフォン端末から支援記録の報告やスケジュール等を確認でき、事務作業効率化が実現できています。これまで支援の記録は国や市が「見本」とする書式を元に、1件の訪問に1枚の手書きの報告書を要していました。新しいシステムでは、支援記録をスマホアプリの介助内容から選択、5回程タップするだけで支援の詳細の入力報告が行えます。各スタッフが入力した支援報



告はシステム内で確認できるため、支援者間のスムーズな情報共有、ペーパーレス化による環境負荷削減とコスト削減も叶いました。また頂いた利用申込みの調整は、翌月1か月分まとめて行っています。これまでは、手書きした調整表をパソコンに入力、それを確認するといった作業を何往復も行っていたため、利用・勤務シフト調整業務には時間を要していましたが、新しいシステム導入により、入力確認作業の負担が軽減され、大幅な時間短縮ができました。業務のICT化で事務作業効率化が実現し、ご提供できる支援をより増やせていけたらと思っています。葦の家のfacebookにて、ヘルパーステーションほっとほっとの活動報告を是非ご覧ください。

(支援員：桂木)

相談支援（基幹相談支援センター・相談支援センターあしっぷ）

城南区障がい者基幹相談支援センターのご紹介！

第2回「区障がい者基幹相談支援センターへ相談する方法は？お金はかかるの？」

第1回では区障がい者区基幹相談支援センターの説明と対象者のお話をしましたが、今回はより具体的に相談するための方法や段取りについてお話をしたいと思います。

当センターへのご相談の際には、最初にお電話で問い合わせただけであればと思います。相談員が業務で出払っているなど、直接来所していただいても対応ができない場合があります。まずはお電話で相談内容を聴かせていただいてから日程調整をするとスムーズに進めることができます。ご相談の方法は電話だけではなく、直接お会いしての面談、メール等の通信手段を利用しでのやり取りも可能です。面談も当センターに来所していただく方法や、ご自宅への訪問による面談、普段利用している関係機関（福祉サービス事業所や医療機関）へ出向いて支援者の方と一緒にお話をさせていただくことも大丈夫です。希望する方法などがありましたらまずはお気軽にご相談ください。

営業時間は月曜日～金曜日の午前9時から午後5時まで（祝日年末年始は除く）です。またご相談をお受けするのに料金はかかりませんのでご安心ください。

次回は、どんな相談ができるのか、普段お受けしている相談内容の例などをお伝えさせていただきます。

(相談支援専門員：佐藤)

グループホーム（すてっぷ・すまいるホーム）

福岡市市民総合防災訓練（城南区会場）に参加しました！

10月16日（日）ホームの仲間2名、職員3名で地域の防災訓練に参加しました。当日は、すまいるホームのある樋井川3丁目2区の地域の方と一緒に防災訓練に取り組みました。

まずは、ホームのある樋井川3丁目2区の安否確認訓練（「逃げタオル」）です。自分たちの無事を知らせる印として、タオルを玄関先につけて、樋井川中央公園に集合しました。地域の方も玄関先にタオルを掛けており、地域の防災意識の高さが伺えました。



[<次頁へつづく>](#)

その後、皆さんと一緒に堤小学校まで行き、堤地区全体での防災訓練プログラムに参加しました。緊急地震速報訓練や消防隊員の放水訓練などを見たり、実際に取り組んだりしています。また、体育館での避難所作りのプログラムとして、段ボールでの仕切り、テントの設置の仕方を学びました。仲間の Y さんも心肺停止になった方がいた場合の胸骨圧迫の訓練をしています。「勉強になるね」などの発言があり、しっかりと仲間、職員共々学ぶ機会となりました。

昨今の日本の状況として、いつ台風や地震などの災害が起こるか分からない現状があります。今回の福岡市市民総合防災訓練のように地域の方と一緒に協力して、災害に備えていくことが大切であると感じました。ホームでも続けて、避難訓練や災害時の事前準備をしていきたいと思えます。

(支援員：志垣)



流域治水

気候変動、都市化の進行などにより、かつて経験したことが無いような豪雨が多発し、毎年のように各地で災害が起きています。一昨年、球磨川の氾濫により高齢者施設で 14 名の方が亡くなり、福岡市でも平成 21 年 7 月豪雨で樋井川が氾濫し大規模な浸水被害が出ました。当法人の主要な施設は、樋井川の支流に点在しており、線状降水帯の発生などにより、施設に被害がいつ起きても不思議ではありません。国も、治水対策に力を入れていますが、これまでの川底のしゅんせつや堤防作りなどの伝統的な治水対策では限界があり、流域の地域全体で、河川に流入する水量を抑制する“流域治水”を対策の中心に据えています。具体的には、地域の住宅や学校、商店、施設などに雨水タンクを設置したり、敷地内に雨水を浸透させるアメニワ作りや土壌改良を行うことなどにより、地域全体で貯水、保水力を高め、豪雨被害の防災・減災につなげるものです。また、ためた雨水を日常、施設や街の緑化に利用するグリーンインフラや災害時に生活用水として利用することもできます。このような取り組みを地域、学校、施設で行い、新たな街作り、地域作りに生かすことができます。法人では、新たに地域に施設を建設する計画を立てていますが、この取り組みを進め、災害対策を地域共同で取り組んでいく、新しい地域貢献、地域福祉の拠点となるモデル施設をめざしたいと考えています。

理事長 友廣道雄

社会福祉法人 葦の家福祉会だより 令和 4 年 12 月号

発行日 令和 4 年 12 月 1 日

編集・発行 社会福祉法人 葦の家福祉会

〒814-0153 福岡市城南区樋井川 4 丁目 1 - 1 7

〈代表〉Tel 092-873-7481 Fax 092-834-3362

E-mail asinoie@blue.ocn.ne.jp

URL <http://www.ashi.sakura.ne.jp>